
青春イカ

宇治宮王子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

青春イカ

【NZコード】

N91880

【作者名】

宇治富士子

【あらすじ】

下校中、同級生の女子に「イカに似ている」と言われた男の青春。

「君はイカに似てる

下校途中に友人の吉田ハルミに突然言われた。

僕は驚いた。

僕は仰天して、彼女の目を一回見た。

彼女の目は真剣だ。

身体的特徴？行動？性格？靈感？フイーリング？なんのこっちゃ。

僕の何とイカを結びつけ、彼女はそう思ったのだろう、わけがわからぬ。

僕がイカに似てるという要素は、主観的に見て、「ない」。

客観的に見てもそうだろう。

僕は生まれて18年間、一回もイカに似ていると言わたることがない。

でも実際彼女はいまここで、いま夕焼けが美しい坂道の途中で、軟体動物門頭足綱十腕形上目、つまり「イカ」に似ると淡々とい放つたのだ。

僕は満を持して彼女に問いかけた。

「何故、僕がイカに似てると思ったの」

「似てもいいじゃない」

そう彼女は答えた。

この女、僕をナメてるとしか思えない。

稚拙な悪口でも言つて、僕と「コミュニケーションを取りたいだけ」のか。

ならば、「ゴキブリ」とか「ハエ」といった害虫にするべきだ。
そうすれば、僕は無駄に考えを巡らせる必要性はないはずだ！

「私、イカ嫌いなのよ」

よしわかった、もうわかった！

これは吉田ハルミが僕のことを嫌惡しているという意思を、
わざわざ自身が苦手とするイカに置き換えて僕に伝えているんだ、
くそが。

だから僕はこう言つてやった。

「吉田ハルミは味噌汁に似てる、僕は味噌汁が大嫌いだ！」

吉田ハルミはクスッと笑つて、こう言った。

「そういうところが、イカに似てるのよアナタ」

僕はもう彼女の意味不明な挑発に乗ることを辞めた。

坂道を下り終え、僕らは無言のまま、各自の家へと向かった。

今晚の食卓にはイカの刺身と味噌汁が並んだ。
それらを眺めて改めて思う。

僕は何故イカに似ているのだろうか。

そして、彼女にとつてイカとは何なんだろうか。

良い意味だったら、今日は悪いことしたな。

…。

こんな気持ちは初めてだ。

僕は少し女性に優しくなった。

(後書き)

書いてて楽しかった作品。タコに似てるって言われたら怒るけど、イカに似てるって言われたとき反応に困るのは私だけでしょうか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9188o/>

青春イカ

2010年11月14日23時50分発行